

高等女学校は東新町にあって、市電で通っておりまして。淑徳は愛知県の中では初めて制服を採用した女学校で、当時としては珍しく、制服で初めて洋服を着た人もいたと思います。冬は紺色のベルベット、夏は木綿で淑徳の徳という大きな字がハンドのバックルについていました。

校長の小林清作先生は、着物と洋服との二重生活はだめだ、洋服に統一した方が経済的だと言われていました。でも私は、汚れるといけませんから家に帰るとすぐ着物に着替えています。制服は成長期の4年間、よくもったと思います。

5月17日が開校記念日ですが、その日に合わせて4月に入学して、すぐに体操服を縫いました。自分で布を買ってきて、リボンを縫いつけて、その服で開校記念日に行進しました。

愛知淑徳学園は2005年(平成17年)に創立100周年を迎えます。このシリーズでは6回にわたり、愛知淑徳学園の卒業生に学園での思い出を語っていただきます。

1回目は、1905年(明治38年)に創設された愛知県初の私立高等女学校、愛知淑徳高等女学校の第19回卒業生、松本久子さんにお話を伺いました。



愛知淑徳高等女学校第19回卒業生(昭和2年卒業)

松本久子さん(旧姓:岩田)

明治44年生まれ。現在92歳。
高等女学校を卒業後、補習科に1年通い、花嫁修業ののち、22歳で「松本糸舗」(名古屋・伏見)に嫁ぐ。
現在も1日に2~3時間は店に出て、レジを打つという。

卒業してから76年たちますが、 今でも「淑徳」の名前を聞くと、 高等女学校時代を懐かしく思い出します。

私が入学した大正13年の新入生は200人と多かったのですが、引越したり途中でやめたりする人もいて卒業したときは150~160人くらいになっていました。クラスは4組くらいあったと思います。
好きだった科目は化学と数学です。

家が化学薬品を扱う仕事をしていたせいもあるかもしれませんが、化学反応式が好きでした。何と何が結び付くと硫酸のH₂SO₄になるとか、今でも覚えているんですよ。

お裁縫も好きで、袷や袴、丸帯などを縫いました。新潟からいらした伊藤浪先生という先生からほめられたのを覚えています。苦手だったのは音楽です。音痴だったんですよ(笑)。

先生方はみな厳しい方でしたが、いい先生ばかりでした。よくフツポウソウの話をしてくださった理科の梅村甚太郎先生や、絵の川嶋要先生。体



卒業証書。このほかに「精勤賞」の賞状も。4年間の在学中、4日以下しか休まなければもらえた

育の先生は、山本先生と言いました。がみな、山本コンベイとあだ名で呼んでいました(笑)。

女学校は部活が盛んで、テニスやバレー、バスケットなどがありました。学長の娘さんと、テニスのシングルで全国一位になった小林知子さんは、同級生でした。

私は部活はやっておりませんでした。10人兄弟の上から3番目でしたので、弟妹のお守りをしなくてはならなかったのです。姉2人は名古屋市立女学校に進みましたが、私と妹2人は淑徳女学校に進みました。孫娘も淑徳大学を卒業しております。

思い出深いのは、4年生のときの修学旅行です。東京で2泊して、社会勉強のためにテニートへ行ったり、靖国神社や浅草へ参拝したり、鎌倉へも足を伸ばしました。日光では華蔵の滝の滝口まで、1日がかりで歩いて下りました。日光はレイクサイドホテル



卒業写真。戦時中、箆筒ごと疎開させたという

という名前のホテルで初めてベッドで眠れるというのが、とても楽しみでした。

仲のいい同級生たちとは子供の手が離れてから、毎年のように同窓会を開いています。最近はずすがに人数が少なくなりりましたが、今年も3月に集まりました。

以前はよく旅行へも行きました。修学旅行で行ったところを訪れたこともあります。鎌倉の宿では、「ここで枕投げをしたね」と思い出話に花を咲かせました。同級生の中でも山脇さんという方とはずっと仲がよく、生涯の友となりました。

高等女学校を卒業してから76年がたちますが、今でも淑徳の名前を聞くと懐かしい気持ちになります。結婚、出産、戦争といろいろありますが、自分の中に、「しっかりせよ」という「淑徳魂」が今でも残っているの